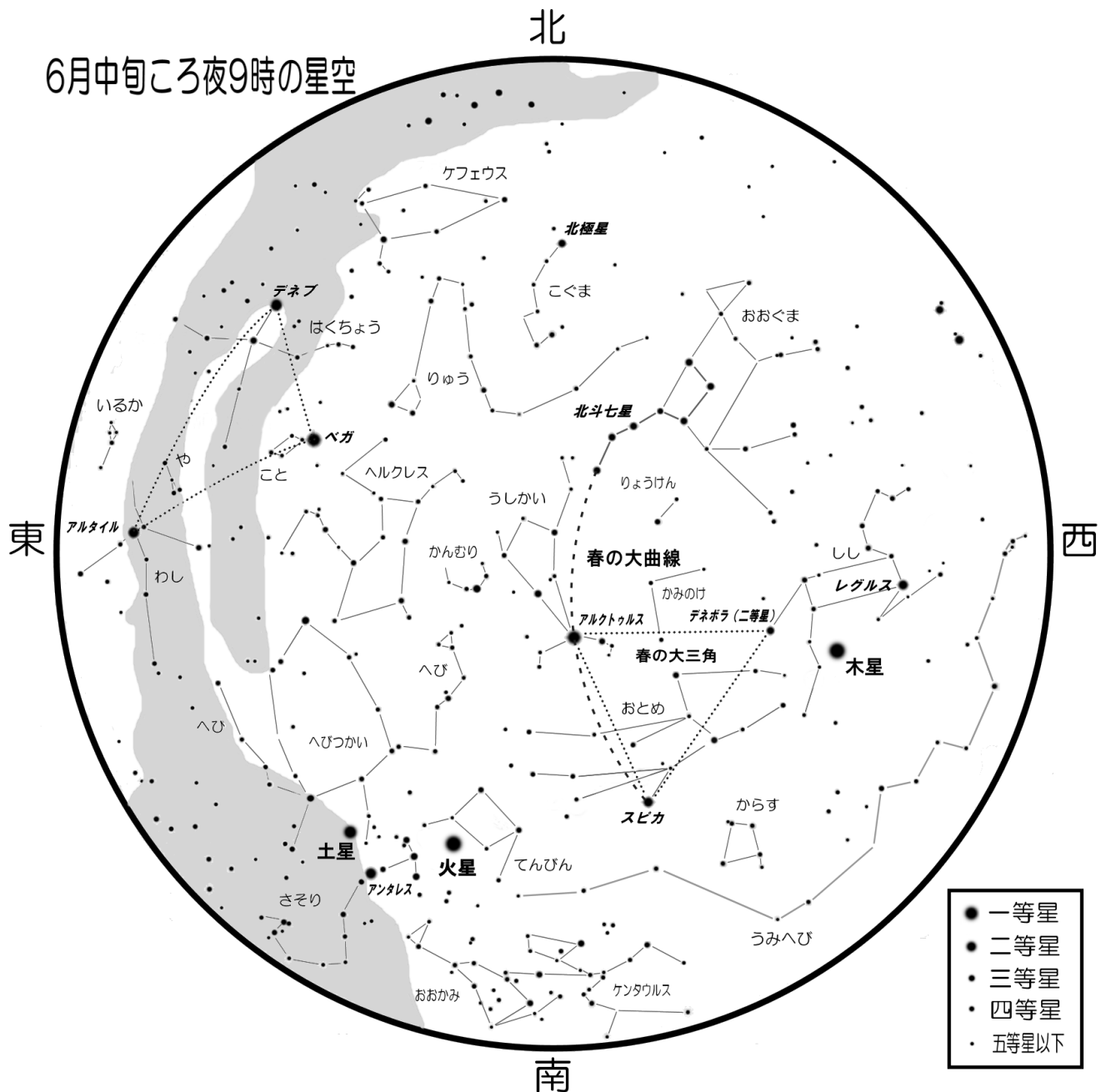


阿南市科学センター 6月の星空案内



今年の6月の夜空は、おなじみの春から夏の星座に加え、西の空には、太陽系最大の惑星「木星」が-2等級という明るさで輝いています。また、南から東の空を見渡すと地球最接近を迎えただけで、-1.7等級で輝く「火星」、そしてその近くには木星や火星に及ばないものの、こちらも比較的明るい0等級の土星を見ることができます。

ただ、残念なことに、今月はちょうど梅雨どきに当たり、はっきりしない天気が続きます。そのため、すっきりとした空で星を見ることは難しくなりますが、雨が降った後などには空気中の汚れが洗い流されることによって、思いのほか空の透明度が良くなることがあります。そんな日はもちろん星もよく見えますので、この時期は雨上がりの晴れ間を狙ってみたいものです。

天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600

6月の月と惑星

月の満ち欠け

月の形	●新月	◐上弦の月	○満月	◑下弦の月
見える日	5日	12日	20日	28日

惑星

水星 ●	金星 ●	火星 ●	木星 ●	土星 ●
日の出前、東の超低空に見える (0.6 → -1.0等)	太陽に近く観察は難しい	午後9時ごろ、南の空に見える (-2.0 → -1.4等)	夜9時ごろ、西の空に見える (-2.0 → -1.9等)	夜9時ごろ、南の空に見える (0.0 → 0.1等)

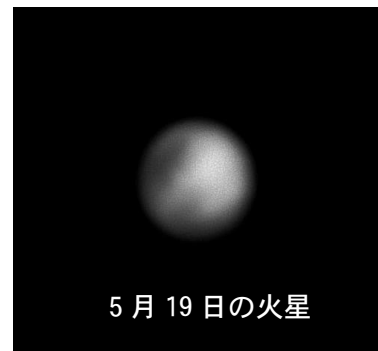
天文館夜間天体観望会 6月の見もの天体

○ 接近を迎えた火星

現在、南の空で赤く、明るく輝いて見える星にお気づきになった方も多くいらっしゃるでしょう。実はこれ、地球のすぐ外側を回る「火星」なのです。

火星は、約2年2か月ごとに地球に接近する惑星で、おおよそ15年ごとに大接近します。今年はその火星接近に当たる年なのですが、大接近の1つ前の接近となり、比較的大きく見ることができます。最接近は5月31日に終わってしまいましたが、今月も引き続きまだまだ大きく見ることができ、天体望遠鏡を使うと、今年の接近は角度的に南極、北極地方に白く輝くように見える「極冠」と呼ばれる氷の塊は見づらいものの、表面の黒っぽい模様は良く見ることができます。

天文館で実施している夜間の天体観望会では、これから夏休みにかけてこの火星もご覧いただけますので、ぜひ2年2か月ぶりに接近した姿をご覧になってみて下さい。



5月19日の火星

今月の天文現象

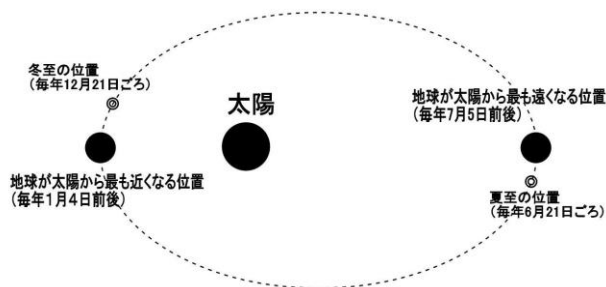
6月21日(土)「夏至」

今月21日は、一年で一番昼の時間が長いとされる「夏至」です。その夏至を含む前後の期間は、14時間以上も昼間があり、その分星を楽しめる時間が少なくなってしまいますが、これも季節の移り変わりのひとつですから仕方ありません。

さて、夏至の頃になると、時々、日の出や日の入りの時間についてお問合せをいただくことがあります。そのほとんどが、「日の出(日の入り)の時間が一番早い日(遅い日)は夏至ではないのは何故か?」というものです。

実際、調べてみると夏至の日の日の出は阿南で午前4時50分、日の入りは午後7時18分です。それに対し、6月13日ごろの日の出は4時49分と夏至より1分早く、6月29日ごろの日の入りは午後7時19分と夏至より1分長くなっています。

これらを説明するには、まず、「夏至とは何か」から理解する必要があります。太陽の南中高度は地球の地軸が23.4度傾いているということから毎日少しずつ変化していて、最も南中高度が高くなる日が「夏至」と定義付けされています。また、図のように、地球が楕円軌道を描いているために、公転スピードも太陽に近いところで早く、遠いところで遅くなりますので、太陽の南中から次の日の南中までの時間、つまり正確な1日の時間も、ほんのわずかずつですが毎日変化します。もし、地球が真円を描く軌道で太陽の周りを回るか、または、夏至の日と最も太陽から離れる(もしくは最も近い)日が一致していれば、文句なしに夏至に日の出が最も早く、日の入りが最も遅くなったのですが、実際は少しずれがあるためにこのような不思議なことが起こるのです。



天体観望会のご予約、お問い合わせは

阿南市科学センター 徳島県阿南市那賀川町上福井南川洲 8-1 電話 0884-42-1600